

令和6年度 城山公民館運営審議会会議録

1 日 時 令和7年3月6日（木）午前10時30分～11時30分

2 場 所 城山公民館本館 206 教室

3 出席者 〈委員〉7名

寺島 頼利（第二地区住民自治協議会会長）

西澤 利治（第一地区住民自治協議会会長）

岡村 貴子（第一地区住民自治協議会地域福祉ワーカー）

小田切隆一（第一地区地域公民館連絡会会長）

松田 愛絵（第二地区青少年健全育成委員会委員長）

柳澤 響予（利用団体「楽しいレザークラフト」代表）

丸山 隆 （市立湯谷小学校校長）

※高橋幸隆 委員、丸山真弘 委員は都合により欠席

〈事務局〉2名

小池 英樹（市立城山公民館館長）

須田 公章（市立城山公民館係長）

長野市公民館条例第14条第1項の規定に基づき、委員の互選により 寺島 頼利 委員を会長とした。

長野市公民館条例第15条の規定に基づき、委員（定員9名）の過半数の出席があるため、会議成立を事務局より報告した。

4 報告事項

〈事務局〉事務局より、令和6年度の公民館概要と公民館企画事業の報告を行った。

主な報告内容：予算・職員体制、活動の重点目標、成人学校事業、市民講座・学級事業、成人祝賀事業、作品展・学習発表会事業、館報発行、公民館利用状況 について

5 審議事項

〈事務局〉令和6年度の活動を振り返り、令和7年度の課題・方針について委員より意見・要望をいただきたい。

〈委 員〉学校と地域が連携していくことは素晴らしいと思っており、小学生の児童を持つ身として、地域の助けがあると大変ありがたい。地域コミュニティスクールの勉強会の中で、公民館との連携できないかとの話が出た。城山公民館の成人学校には郷土史を学ぶ講座もあり、学校主催のフィールドワークに地元住民や成人学校受講生が一緒についていきながら地域の説明を行ってもらえるような連携・交流もできたらいいと考える。一般の市民講座も大人を対象としたものに児童生徒も一緒に参加できる企画も希望する。

〈委 員〉公民館の企画事業について、児童が興味を示すか、こどもたちの願いと一致しなければ連携していくのは難しいと思う。コミュニティスクールで求めても人材が集まらない。人口減、予算減でスマート・コンパクトを求められると、人との繋がりが難しい。

- 〈委員〉住民自治協議会単独でのイベント企画でも、悩みはなかなか人が集まらないこと、また集まる場所が無いこと。公民館との合同企画や公民館施設を使用しての企画が出来ればよいと考えている。
- 〈委員〉館報は公民館活動を知るうえで、予算上難しい面もあるかと思うが、より見やすいカラーでの印刷も検討してほしい。難しいようであればカラー版をホームページ上だけでも掲載してほしい。
- 〈委員〉一市民として意見を言わせていただければ、館報も全戸配布しなくても回覧やホームページに載せるだけでもよいのではないか。
- 〈委員〉館報は地域の歴史をシリーズ化で掲載していただいております、大変ありがたい。普段生活している中で地域の歴史や成り立ちを知るよい機会となっている。
- 〈委員〉城山公民館成人式は地元開催が再開して3年目。館報で成人式の記事を読んで改めて地元でお祝いできたことを嬉しく思った。
- 〈委員〉市民講座募集の回覧チラシを見ているが、地区回覧となると地区によって回覧のスピードが違ふ。先着順で受付となると定数を超える申込みがある市民講座の場合は地区によって不公平感も出る。申込受付開始日を設定したかどうか。
- 〈委員〉市民講座に参加して興味を持ち、現在有志によるサークルを立ち上げ活動をしている。城山公民館という場を毎回無料で使うことができ大変ありがたい。
- 〈委員〉地附山地滑り災害から40年。災害を忘れないためにも、また当時を知らない人にも防災学習を取り入れたらどうか。
- 〈委員〉令和6年度に実施した市民講座の中でも人気のあった講座は来年度も継続してよいのではないか。
- 〈委員〉今後、オンライン講座もできるような環境整備が必要ではないか。
- 〈事務局〉地域や学校との連携について、来年度も各住民自治協議会とは連携しながら「地域の学び」講座を行う計画である。学校との連携については、公民館側から学校に持ち掛けないと学校側も多忙で積極的に応じられない状況がある。お互い顔の見れる連携をしていくことが今後の課題であると考えている。
- 〈事務局〉公民館の利用者の平均年齢は70歳以上である。それを幅広い年齢層にどう広げていくかは今後の大きな課題である。ただ、時代の変化で今は60歳を超えても定年退職で年金だけで生活していけるわけでもなく、働いている人がほとんどである。また、夫婦共働き世帯が大半で、親子参加型の講座を企画しても平日の日中の開催では申込者が少ないのが現状である。今後時代に合った取組を考えていかなければならない時になってきている。
- 公民館は社会教育の場である。講座の企画立案にあたっては人気があるのだけを中心にするのではなく、地域の皆様に課題として学んでほしいことも企画していかなければならない。そのため、公民館から情報を発信しなければならないこともある。そのため、ただホームページに掲載するのみではならず、並行してチラシ等を回覧ことは有意義と考えている。
- 〈事務局〉現在、市民講座のチラシは地区回覧並びにホームページへの掲載である。地区回覧が各戸に回る前でも閲覧できることを周知していきたい。委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいた。今後の事業計画・活動に活かしていきたい。

以上